

皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。
 昨年は、皆様のご理解とご協力をいただき、市政活動に一意専心取り組むことができました。心より感謝申し上げます。
 早いもので、この4月には5期目の任期4年間の折り返し時期を迎えます。物価高対策や雪対策の強化、医療・介護体制の充実、子育て環境の整備など、さまざまな課題が山積しておりますが、GXやDXの推進などにより札幌への求心力を向上させ、人口減少局面を迎える中でも愛する札幌・厚別がさらに発展できるようにしっかり働いてまいります。今後ともより一層のご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

札幌市議会議員 こじまゆみ

健やかな笑顔をつなぐ、
 安心安全なまちづくり



札幌市議会議員

こじま
 ゆみ 厚別区

「新札幌駅名店街」が歴史に幕

JR新札幌駅では現在、JRや国、道、札幌市の4者による耐震化事業が進められています。高架橋の耐震補強に合わせて、朝夕の混雑緩和を図るために改札口前コンコースを拡張する計画です。工事に伴い、新札幌名店街1号館・2号館が令和7年3月で閉鎖、解体される方針で、長年親しんだ場所がなくなるのはさみしいですが、跡地に建設予定の商業施設をよいものにして、まちに活気を生み出せるように働きかけていきます。



こじまゆみのプロフィール

昭和41年8月28日生まれ。札幌東高、札幌医科大学衛生短期大学看護学科卒業。札幌社会保険総合病院ほかで勤務。平成19年、札幌市議会議員に初当選し、現在5期目。この間、厚生常任委員長、新型コロナウイルス感染症対策調査特別委員長などを歴任。現在、文教委員、大都市税財政制度・DX推進調査特別委員などを務める

こじま ゆみ政務調査室 〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条5丁目8-20
 TEL:011-896-6633 FAX:011-896-6631



東部市税事務所が 9月に仮移転

交通局本庁舎の大規模改修工事の実施に伴い、今年9月、東部市税事務所（大谷地東2丁目4-1）が一時的に移転します。移転先は現事務所の隣接地のため、市民への影響が少なく、改修工事終了後に交通局本局庁舎へ戻る予定です。

- 仮移転先 **大谷地アドバンシービル**（大谷地東2丁目4-30）
- 移転期間 **3年間**（令和7年9月～令和10年8月予定）
- 移転日 **令和7年9月16日（火）**

・交通局本局庁舎の改修工事は令和8年度着工予定のため前年に移転を実施する。
 ・大谷地アドバンシービルの改修工事及び事務室等の整備完了後に移転を実施する。

●スケジュール



新さっぽろ駅の バリアフリー化を推進

札幌市では、令和2年度から地下鉄「新さっぽろ駅」のバリアフリー化に向けた工事を進めています。これまで駅南側にはエレベーターがなかったことから、厚別区民センター駐車場にエレベーターを新設し、区民センターに隣接する新さっぽろ団地2号棟の駐車場を代替駐車場として利用しています。総事業費は約5億円です。

地盤の影響などから土木工事に遅れが生じたため、令和6年第4回定例市議会において事業予算の一部を来年度へ繰り越すことを決定しました。予算を繰り越しても、令和8年1月下旬の供用開始予定時期に変更はありません。引き続き高齢者や障がい者など、誰もが安心・安全・快適に移動できる環境整備に取り組んでまいります。

- バリアフリー化
 推進費（新さっぽろ分）
 R6当初予算額
 2億1166万円
 繰越額8800万円



経済成長により豊かさを実感できる 札幌の実現へ

私たち札幌市議会自由民主党議員会は25人が所属する最大会派として、物価高騰対策や人手不足への対応をはじめ、防災、子育て・教育、医療・介護、交通インフラ整備などの課題に総力を結集して取り組んできました。令和6年12月には中央省庁や国会議員に対する要望活動を実施し、必要な予算の確保を強く訴えました。さらに、令和6年6月に国が決定した「GX金融・資産運用特区」制度を最大限に活用し、国内外から人・モノ・情報を呼び込み、人口減少局面を迎えながらも経済成長を続ける活力あるまちづくりを進めていく考えです。



12月13日、市議団が東京を訪れ、中央省庁や道内選出国会議員に要望活動を実施

安全・快適な冬の生活へ雪対策を強化

自由民主党議員会では、安全で快適な冬の生活に欠かせない雪対策の強化を最重要課題の一つに位置付け、札幌市などに対策のさらなる強化を求めてきました。

市の令和6年度除排雪事業予算額は、人件費や燃料費の高騰などを踏まえて総額278億円となりました。大雪が降った場合の排雪作業の前倒し、バス路線の排雪の強化、今後、懸念される担い手不足に備えた1人乗り機械の導入、融雪施設の整備などを引き続き進めてまいります。

また、昨年度、市民生活への影響が大きかったザクザク路面への対応について、今冬は、路面の雪を削る「路面整正作業」を天気予報に基づきザクザクになる前に行い、暖気が来た際の影響を軽減するといった対策も実施します。



負担の在り方に配慮した敬老パスの存続

人口規模で全国5番目の大都市となった札幌市も、高齢化が進む中で人口減少局面に入りました。市では、今後の持続可能な社会に向けて市民の健康寿命延伸に向けた取り組みが極めて重要との考えから、様々な取り組みを進めています。

一方で、50年続く敬老パス制度を、健康ポイント事業に全面的に移行しようとしていた市の当初素案に対しては、自由民主党議員会として、皆さまからの様々な意見を踏まえ、健康寿命延伸の課題と敬老パスの課題を分けて整理するよう主張してきました。

このたび、市は当初素案を修正し、高齢世代と現役世代、双方の負担に配慮して、制度の見直しを行ったうえで敬老パスを存続させる実施案をまとめました。今後も幅広い世代の理解を得ながら、誰もが長く健康に安心して暮らせる未来を築いてまいります。

子ども医療費助成で子育て世帯を応援

自由民主党議員会では、子育て世帯の経済的負担を軽減するため子ども医療費助成の対象拡大に取り組んできました。その結果、市では医療費助成の対象を令和6年4月から中学3年生まで、さらに令和7年4月から高校3年生まで拡大することとなりました。子ども医療費助成を受給する方は、初診時に一部負担金(医科580円、歯科510円)のみの負担で医療機関を受診することができます。

なお、令和7年4月からの拡大に当たり、高校1、2年生世代のお子さん(就学していない場合を含む)が新たに助成を受けるためには、申請が必要です。

令和6年4月から

中学3年生までの
通院・入院

対象拡大

令和7年4月から

高校3年生までの
通院・入院

詳細はこちら



物価高克服に向けた支援を拡充

物価・エネルギー価格の高騰が市民生活や経済活動に大きな影響を及ぼしています。政府が令和6年11月に閣議決定した「総合経済対策」には、物価高対策による直接的な国民負担の軽減策として3.8兆円規模の財政支出が盛り込まれました。

これまで自由民主党議員会では、政府与党に市民生活への負担軽減や支援メニューの拡充を強く要望してきました。引き続き、物価高の影響を受ける方々へ支援を速やかにお届けできるよう取り組んでまいります。

低所得世帯支援

- 住民税非課税世帯には、一世帯当たり**3万円**を目安に給付
- 子育て世帯には、子ども一人当たり**2万円**を加算して給付

エネルギー価格に対する措置

- 電気料金 低圧契約 **▲2.5円**/kWh 高圧契約 **▲1.3円**/kWh
- 都市ガス **▲10円**/m³

※電気使用量の大きい1〜3月に支援、電気・ガス合計で月1300円の値引き(電気の使用量は2人以上世帯の全国平均電力購入数量(400kwh)を、ガスの使用量は一般家庭の都市ガスの平均使用量(30m³)を想定)

